

Business News 01

ユニリーバ、グローバル幹部育成センターを設立

イギリスとオランダに本拠を置く日用品・食品大手ユニリーバ社は、ロンドンに次ぐ第2の拠点となる幹部育成センターをシンガポールに設立することを発表しました。シンガポールで人材教育を行い、アジアを中心に今後10年で売上倍増を目指します。

ユニリーバ社は今回、シンガポール西部に位置するネパールヒル(Nepal Hill)に最大約38億円(4,500万USD)を投資して「フォー・エイカーズ・シンガポール(Four Acres (Singapore))」を建設し、2013年の始業から年間700-900人の国際事業幹部向け研修を行う予定です。ネパールヒルは、ビジネススクール、企業人材施設および人材開発サービスの一大拠点を築くシンガポールの国家プロジェクト「LINK@Nepal Hill」に基づいています。

ユニリーバ社のポール・ポルマンCEOは、今回の投資は2009年のシンガポールでのアジア本社設立に続く戦略的決定であるとし、国家的に知的資本が充実している点を評価して、「シンガポールは知識ハブとして存在感が増しており、政府が常に優先的に人材への投資をおこなっている」と述べています。ユニリーバ社は、シンガポールを先進国、新興国それぞれを担う管理職を養成するのに適した拠点と位置付けています。

*記事中の通貨換算レートは、1米ドル(USD)=84日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

Business News 02

キッコーマン、マリーナベイの人工池開発に寄付

世界的な醤油製造大手のキッコーマン株式会社は、シンガポール工場設立25周年を機に、マリーナベイに建設中の植物園「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」内に建設予定の人口池「キングフィッシャー・レイク」の開発資金として約6,400万円(100万SGD)を寄付しました。醤油作りに欠かせない水の品質を重視するキッコーマンは、シンガポールの水資源開発や人々の生活を豊かにする取り組みに力をいれています。

キッコーマンの茂木友三郎代表取締役会長兼CEOは、今回の寄付を「企業市民としての社会責任の一環」とし、シンガポール工場の長期的操業に際する感謝を表すものと述べています。キッコーマンは1990年から工場設立記念行事を執り行っており、2005年の20周年記念時にはアジア向け製品開発拠点として研究施設を開設しました。

キッコーマンは、シンガポールをはじめとしたASEAN諸国や中国などにおける今後数年の需要拡大を見込んで、10-15

年以内にアジアで1-2カ所の工場増設を計画しています。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=64日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

Business News 03

石原産業、シンガポール人留学生向けバイオ医療奨学制度を設立

大阪市に本社を置く石原産業株式会社は、シンガポールの、医学以外の生命工学を専攻する学部生を対象とした「2011年度バイオ医療奨学制度」を立ち上げました。奨学生は、大阪大学大学院医学系研究科医科学の修士課程プログラム(2年間)を専攻でき、修業時には修士号が与えられます。

石原産業は1989年に子会社「ISK Singapore」をシンガポールに設立して以来、シンガポール政府支援に感謝を表し、大阪大学の大学院コースや研修生を受け入れ先とした奨学制度を設けています。石原産業は、バイオ医療分野の人材育成に力をいれるシンガポールの取り組みを支援しています。

Business News 04

丸紅、航空機リース事業JVをシンガポールに設立

丸紅株式会社は、主に格安航空会社を対象とした航空機リース事業を展開するため、ドイツ金融機関とシンガポールに合弁会社を設立しました。

丸紅は、独ディーヴィビー銀行(DVB)傘下の投資ファンド、デュカリオン(Deucalion)と共同でエムディー・アヴィエーション・キャピタル社(MDAC)を設立しました。MDACは今後2年でエアバス社製「A320」やボーイング社製「B737」といった小型旅客機を中心に20機を購入する計画で、必要資金は約800億円(9億5,200万USD)となる見込みです。

丸紅は、航空産業は新興国での需要拡大、ボーダレス化する経済活動、世界的な規制緩和の動きを追い風に、長期的に堅固な成長が見込まれると予測しており、航空機リース業を新たな収益源にすることを目指しています。

*記事中の通貨換算レートは、1米ドル(USD)=84日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

Business News 05

横河電機シンガポール、ベトナムにて3件目の火力発電所制御システムを受注

横河電機株式会社のシンガポール子会社、ヨコガワ・エンジニアリング・アジアは、丸紅株式会社からベトナムの火力発電所向け制御システムを受注しました。国営のベトナム電力公社(EVN)が北部タインホア省ギソン地区に新設するギソン

第1火力発電所で、ボイラ、タービン、およびその付帯設備向けの制御システムを納入します。

ヨコガワは、1998年にファライ第2火力発電所、2009年にブンアン第1火力発電所を受注した火力発電所における実績に加え、優れたエンジニアリング能力と営業活動により今回の受注にいたりました。ギソン地区では今後も第2火力発電所や石油精製施設の建設が計画されており、ヨコガワは今回の受注を機にベトナムでの電力プラント向け制御事業のさらなる拡大を目指しています。

ヨコガワは2010年10月にも、シンガポールの西部ジュロン島テンブス工業地区に建設されるバイオマス(生物資源)・石炭混焼コージェネレーション(熱電併給)プラント向けの制御システムを受注しています。これは、世界最大規模となる発電設備で、石炭やパームヤシ殻を利用したシンガポール初のプラントとなります。

Business News 06

太陽光発電システムの データ集積センターNSRを設立

太陽エネルギー研究所(SERIS)は、2010年11月30日、シンガポール国内にある太陽光発電システムのデータを集積する「太陽光発電データ調査研究センター(NSR)」を、シンガポール・ポリテクニク校と共同で立ち上げました。これは、シンガポール・ビジネス連盟(SBF)、シンガポール・持続可能エネルギー協会(SEAS)、ならびにEDBとエネルギー市場監督庁(EMA)が参画するクリーンエネルギー産業推進戦略本部(CEPO)共同の業界的取り組みの一環です。これにより産学官でクリーンエネルギー普及を加速します。

NSRの開所式では、CEPOが約13億円(2,000万SGD)を投じて進める「太陽光発電事業支援プログラム」の一環でクリーンエネルギーを導入した民間プロジェクトを表彰する「太陽光発電バイオニア賞(Solar Pioneer Award)」の第2回授与式も開かれ、6つのプロジェクトが選ばれました。

現在新たに実施されている実証実験を通して、太陽光発電システムの発電容量が拡大しています。2008年中ごろに200kWpだった発電容量は、確定済みプロジェクトが実施されることで約1万kWpに急増すると試算されています。これに伴い、関連するシステムインテグレーター、設計者、デベロッパー、テクノロジー会社などの商機が見込まれます。特にシンガポール企業は、技術力の向上や経験の蓄積により、国際的な事業展開が期待されています。

EMA長官兼CEPO共同所長、ローレンス・ウォン氏は、「こうした発展により、中長期的に太陽光発電がシンガポールに定着し、その結果エネルギー資源が多様化して、エネルギーの安全保障、経済競争力の向上、持続可能な環境への取り組みが後押しされるでしょう」と述べています。そして、企業が国内



SERIS所長Joachim Luther教授、NSRの新規設立を紹介

のCO2排出量を削減し、エネルギーの選択肢を広げる技術開発を進め、コスト競争力あるソリューションを実現するよう提唱しました。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=64日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

Business News 07

ルーカスフィルム、事業拡大に伴い、 自社ビルを建築、2012年に移転

映画制作会社ルーカスフィルムの子会社、ルーカスフィルム・シンガポールは、2012年よりフュージョノポリス内に地上8階建ての自社ビルを建設します。事業拡大に伴い、現在拠点にしているチャンギ・ビジネス団地から2012年に移転する予定です。

敷地面積3万8,000平方メートル、総床面積の2万2,500平方メートルの新オフィスは、1階に最新技術を用いたデータセンターや収容人数100人の劇場のほか商業施設も併設し、地下2階にはサービス施設や駐車場を設置する計画です。

ルーカスフィルムは2005年のシンガポール進出以降、インダストリアル・ライト&マジック部門、アーツ部門、アニメーション部門の3部門を立ち上げています。そのうちアニメーション部門は、特別アニメ部門とテレビアニメ部門に分けられ、特別アニメ部門は2009年に活動を始めたばかりです。シンガポールのチームは、映画「スター・ウォーズ」や「アイアンマン2」をはじめ、テレビ番組「クローン・ウォーズ」、iPad向けゲーム「モンキーアイランド2」などの制作に携わってきました。

ルーカスフィルムのミシェリン・チャオ社長兼最高執行責任者(COO)は、シンガポール事業開始時から知的財産保護体制、インフラ、そして英語が公用語であるという利点を評価しており、「優秀な人材の獲得そして維持には従業員が働きたい、住みたいと思うような環境を提供することが必要です。シンガポールの人件費や不動産コストはシンガポールの魅力とつながっているといえるでしょう」と語っています。